

平成30年7月豪雨の出水報告会 議事録

◆日時：平成30年11月8日（木）10:00～11:15

◆場所：美濃加茂市役所本庁舎3階第一議会委員会室

◆出席者：市）美濃加茂市長 伊藤誠一、建設水道部長 西田恒夫

町）坂祝町長 南山宗之、産業建設課係長 三品道史

国）木曽川上流河川事務所長 堀与志郎、副所長 水野徹

県）岐阜県県土整備部河川課技術管理監 辻克紀

可茂土木事務所長 野原克浩

協議事項1：7月豪雨について

国（木曽川上流河川事務所）県（河川課）がそれぞれ7月豪雨の出水状況、実際の対応等について説明を行った。上記協議事項に対する内容について次のような意見や質問がなされた（発言順）。

【坂祝町長 南山宗之氏】

・台風が発生した時に、ヘクトパスカルを見ていた時からかなり低く怖く感じた。台風21号でしたか、7月5～7日対応に動いていましたが夜の間に、加茂川の光徳橋付近のカメラ、水位を注視していましたが、安定しており、今回は助かったなと思った。今渡ダム、岩屋ダム、丸山ダムの放水量をいつも見るが、岩屋ダムがあんなに満水になったのは恐怖を感じた。ただ、丸山ダムと岩屋ダムの時差があったので、岩屋ダムの放水の分もカバーできたので助かったと思った。

加茂川がいつもあふれており、そこに職員を各橋ごとに張り付けたり、幹線道路に配置し通行する車両の対応をしなければならず、人員交代などもあるため、ものすごいエネルギーを使っていたが、今回はその心配が無く、別のところにエネルギーを割けた。増設した排水機場が安定した排水を行っていただいたため、そのような人員配備をすることがなく良かった。

坂祝町側の河道の竹林の伐採を非常に広範囲でやっていただいた。いつもなら竹林があると、それに流木が溜まったり、ゴミが溜まったり、水が跳ね返り堤防が傷ついていたが、今回はさっと流れ、堤防が削られることが無かったように思う。河川の伐採は非常に大事と思うとともに、堤防が傷つかないという点でやっていただいて良かった。いろんな手を打ったことが7月には効果があり、いろんな意味で災害を未然に防ぐことが出来たことを感じており、国土交通省には感謝申し上げる。

【美濃加茂市長 伊藤誠一氏】

・当市も3日間、坂祝町同様、ずっと警戒していた。加茂川の水位を見ながら、いよいよ稼働しないといけないという時の不安感。増設した排水機場が本当に稼働するのか、間違いが無いと思ったが、不安もあった。しかしながら問題なく稼働するばかりではなく、みるみるうちの水位が低下し、これで生かされていると実感した。ポンプ場の機能の凄さを感じた。15トンの時ももちろん感じたが、やはり25トンに増設したことは、効果は市民からも木曽川の水位が下がっていくのが良くわかったという声があり、増設、河川の整備等のハード効果は十分にあったと感じ

ている。

その上で、次の2つのことを考えていかないといけないと思っている。

①避難準備情報をどのように出すか。どこの首長も悩むところであるが、市民の間にも早め、早めの避難という雰囲気が伝わってきた。特に台風等は住民個人個人で事前に予測は出来て動いているようであるが、その反面、どこまで緊張感が伝わっているか、不安に感じている。避難等の勧告に対して実際に2%程度しか動きが無いということもある。市が指定している避難所にはいけない、市民それぞれが独自で最適な避難する場所を知っているということがあるようで、非常に行政としての力不足を感じるとともに、そのような声を把握していなかったことに反省している。

ハザードマップや地域防災計画等で避難所を万全の施設である、公共施設を対象に指定しているが、夜間、暴風などの緊急時にそのようなところに移動できるか、強いることが適切なのかと痛感した。もう少し柔軟というか、市民の皆さんがどこであれば適切に、安全に避難できるのか、現場で柔軟に考えていく必要があると感じている。もちろん、土砂災害や水害が発生しやすいところは絶対に避けないといけないが、市民が考えていることをもっと行政の計画に入れていないといけないと思っている。

②今回は当市の建設水道部の職員で、過去の経験があった職員が中心に先を読んで対応することが出来たが、ずっと彼らに対応できるわけではないため、ノウハウの継承をどのようにしていくか。マニュアルはあるものの、災害時にマニュアルを見て勉強してから動くということは出来ないし、現場でその姿を見ると不安を感じる。頭、身体で対応を理解している職員を、実践的な訓練を国や県と連携して、身体で覚える職員、災害時に活躍できる職員を作っていきたいと感じている。

避難所の見直し、即戦力職員の確保に国や県からの御指導、御協力をいただきたいと考えている。

協議事項2：対策の実施状況報告

国（木曽川上流河川事務所）県（可茂土木事務所）市（美濃加茂市都市計画課）町（坂祝町産業建設課）がそれぞれ実施している事業について説明を行った。

上記協議事項に対する内容について委員から次のような意見や質問がなされた（発言順）。

【坂祝町長 南山宗之氏】

・坂祝町は今報告したこと以外にもまだ色々計画しており、来年度、寿後川の大針地区の流量等の水系の全体像の調査を予定している。加茂川とは関係ないですが、西谷川が木曽川に直接流れているが、こちらも同様に調査して内水対策をしていきたい。

危機管理型水位計を設置していただけるということで、今まで勘で避難をしいた地域であったので、水位計を設置していただけるということで水位の状況を見ながら避難できることはありがたいと思っています。

まだまだ内水対策の全体のデータをもっていない、勘に頼っているところばかりなので、河川の調査や水位計を見ながら対策を取っていききたいと思っている。

【美濃加茂市長 伊藤誠一氏】

・これからの中で、情報をいかに早く正確に伝えるかが重要と感じている。いろんな水位計であるとか、降水量などを国や県と連絡を取ってホットライン等で情報の収集にこれからも変わらず協力いただきたい。

市民側への情報伝達の手段として、同報無線を使っていたが、夜間、暴風などの時には聞こえづらい。その同報無線の代わりとして、防災ラジオを75歳以上の独居の方、山間部などの同報無線が聞こえづらい難聴区域に貸与してみた。今回の災害時、避難準備に関する情報などもこれを使ったことで、災害弱者の方から情報として分かりやすいという声を聴きましたので、来年度、市内全戸の希望世帯に配布したいと思っている。これはFMを使って災害時に情報を流すもので、電源を切っていても、別の番組を聞いていても強制的に切り替わって情報が流れるものである。こういったもの配置して、水位の状況や避難等の情報を確実に伝わる方法でやっていきたいと思っている。

いずれにしても、情報をいただくこと、掴むことは重要ですので今後も御支援いただきますようお願いします。

【岐阜県可茂土木事務所長 野原克浩氏】

・平成29年度に排水機場が竣工し、河道掘削などのハードの対策が進んできた。しかしながらこの頃の雨の降り方の多くが異常降雨ということがあり、雨量等のピークが二度三度起きることがある。こうなると木曽川本流の水が上がり、ポンプでは排水できないことが起きるかもしれないという心配は今年7月の際は思っていた。そのときに、住民の方々に慢心の状態があるように感じる時があり、語弊があるかもしれないですが、氾濫があり得ること、そのことを覚悟していただくことを皆さん心にとどめておいていただかないと、ハードに期待しすぎてはいけないと心配になることがありました。

情報提供を我々からするだけではなく、住民の方が先行して情報を取りに行くことも必要と思うので、オープンに情報を出しているのも、広報活動に御協力いただけると助かります。トリガーとして住民個人個人が自分の判断基準を持ていただくことが重要かと思う。自助のあり方、共助のあり方、公助のあり方を考えていく時期になっていると感じている。

【美濃加茂市長 伊藤誠一氏】

・自分の命は自分で守らないといけない。苦情、不平不満が出てくることは市民感情としてやむを得ないと思うけれど、住民にもやることはやっていたかをこれからは求めていかないといけないと思う。

断水があり、県から国からいろんな支援をいただき感謝するところですが、断水があったことで水や川が万全ではないこと、市民の意識も変わってきた。市民から市民自身が考えないといけない、という意識が変わってきたと感じている。いざという時は市民がそれぞれで何とかしないといけない、ということを防災訓練でやっていかないといけないと感じる。情報は取りに行けばあるということを広報していきたいと思う。

【坂祝町長 南山宗之氏】

・野原所長が言われた通り、今回はたまたま良かっただけで、坂祝町民も同じで堤防が出来たことで意識が安全だということをみんな思っている。新丸山ダムが完成するまでは9.28規模の

水量であった場合、堤防を越すんですよという情報はみんな知らない。越水することを知らない。安全だと思っている。こういうことをもっと伝えないといけない。事あるごとに言っているが、みんな信じていない。危ないという意識がない。

多分、越水した時には行政の責任だといわれ、そんな忠告は受けていないと住民からいわれると思う。新丸山ダムができて初めて堤防の中で収まる、出来るまでは越水することを、安心できないことを伝えていかないといけない。

水防団を組織しておらず、消防団が兼ねている。長良川で水防団が訓練していることは、我々は訓練したことが無い。堤防が痛むことを経験したことがないこともあるが、どのように手当てをするのか、長良川の訓練を見に行った者しかわからない。そういった訓練をしないとダメだと思うが、それらが出来ておらず弱い。危機管理としては水防の意識がまだまだである。

木曾川が堤防を越すことの意識付けができていない。こういったことをしっかりやっていかない。ハードだけで全てをカバーできないという認識を住民に持ってもらい、みんなでハザードマップを見ながら、いざという時は逃げないといけないし、その腹積もりをしないとダメということを知ってもらいたい。

【美濃加茂市長 伊藤誠一氏】

・中濃大橋の下を国土交通省の配慮で土嚢の置き場としてお借りできた。下町地区という加茂川が氾濫すると必ず床下、床上浸水があるところから、消防団などを待つのではなく、自分たちで土嚢を積むという提案から作ったもので、地元の要望から設置したものである。他の自治体等からの要望があれば、適地がないかもしれないですが、同様に要望させていただきたいと思う。